

| | | | | | | | |
|------|---------|------|----|------|---|------|------|
| 科目名 | 生活と福祉 A | | | | | 単位 | 2.0 |
| 担当教員 | 鶴田 禎人 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 開講期間 | 前期 | 配当年次 | 1 | 授業番号 | 5109 |

●授業のテーマ

生活について理解し、福祉の役割を学ぶ

●到達目標

個人の生活を取り巻く環境の変化を掴み、現代社会において福祉が果たすべき役割やしくみ、課題を理解する。今後、専門領域を学ぶ上での福祉に対する興味・関心を高めるとともに、必要な基礎知識を身につける。

●学習内容(授業概要)

現代の日本において、社会環境が変化する中でどのような生活問題が起きているのかを理解する。その上で福祉が果たすべき役割・課題を理解した上で、福祉のしくみを体系的に学ぶ。

講義の流れとしては、まず講義参加者を4~5人のグループに分け、それぞれに講義テーマに応じた課題を与える。その上で、講義時間および課外時間を利用し、期日までに課題を仕上げることを指定する。そして、アカデミック・スキルの習得も兼ねて、パワーポイントによる全体発表、他の学生による質問・感想、担当教員による講評・補足、講義などを行う。

以上のようなアクティブラーニングに位置付けられる方法によって、主体的・能動的な講義への参加、授業外における学習の喚起、社会に対する興味・関心の向上を図る。

●学習内容(授業計画)

- 第1回 ガイダンス、課題提示
- 第2~4回 グループワーク
- 第5回 健康と医療①発表
- 第6回 健康と医療②講義
- 第7回 高齢者の生活と介護①発表
- 第8回 高齢者の生活と介護②講義
- 第9回 人口問題と年金①発表
- 第10回 人口問題と年金②講義
- 第11回 貧困の拡大と生活保護①発表
- 第12回 貧困の拡大と生活保護②講義
- 第13回 障がいと福祉①発表
- 第14回 障がいと福祉②講義
- 第15回 まとめ

●準備学習・事後学習の内容

講義内で毎回指示する。

●成績評価方法・基準

グループワーク 40点、期末試験 60点

グループワーク参加を単位認定の条件とする

●テキスト（必携）

テキストは特に指定せず、講義は随時資料等を配布する。

●参考文献／その他

講義内で随時テーマに関連した参考文献を紹介する。

●履修上の注意

グループワークに積極的に参加すること。

福祉に関する新聞やテレビ等の記事・番組に関心を払うこと。